

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.112
2024. March

発行者 琉球病院事務部長
大城 英作

基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

琉球セミナーのお知らせ

「ゲノム医科学からみた精神疾患の臨床」

院長 福治康秀

当院にて、3月22日(金)の15時より琉球セミナーを開催します。今回は、名古屋大学大学院医学系研究科精神医学講座教授の池田匡志先生と藤田保健衛生大学精神神経科学講座講師の齋藤竹生先生をお招きしております。お二人は、ゲノム研究のパイオニアで、全ゲノム解析により精神疾患の病態解明や治療効果や副作用の判定など、研究の最前線で活躍されておられます。それは、研究に留まらず臨床応用にも積極的であり、また臨床的視点からも研究にアプローチされ、実践的な研究を進められています。

クロザピンの研究にも積極的に取り組まれ、特にクロザピンの大きな副作用である無顆粒球症の発症に関するゲノム研究にも力を注いでおられます。当院では多くのクロザピンを使用している患者さんがいらっしゃるため、当院の患者さんやスタッフ、そしてリーダーである木田先生と協力して、共同研究を進めてきました。その際には、患者さん、そして各関連機関の皆さん、ありがとうございました。

池田先生、齋藤先生は、その後も精力的に臨床に根差した研究を進められております。先日、沖縄で開催された日本生物学的精神医学会において久しぶりにお会いし、さらに実践的なゲノムに関する臨床研究を進められていることに感動しました。それで、この度ぜひ沖縄において改めてその内容を広く伝えてほしいとお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。

精神科臨床においては、治療反応の予測や副作用の出現予測は臨床上判断が難しく、実際に使用してから判断するというのが実際です。その予測が、ゲノム解析のエビデンスを使って可能になるのではないかと、積極的に取り組んでおられます。その最新の内容について、今回の琉球セミナーが、皆さんにとって知る良い機会になればと思っています。

みなさん、ぜひご参加ください。

記

2024年3月22日(金) 15時~17時

(院内会場) 琉球病院管理棟 3階 大会議室

(WEB会場) 参加申し込みの方に後ほど ZOOM ID とパスワードをお送りさせていただきます。

御多忙の折恐縮ですが、参加者の確認を致しますので、以下の QR コードより応募フォームへのご協力をお願いいたします。

定員になり次第締め切らせていただきますので、早めのご応募お待ちしております。

応募フォームは3月15日(金)で閉鎖いたします。

担当者: 経営企画室 金内・富永

E-mail: 627-keikiji@mail.hosp.go.jp



院長



ふくじ やすひで
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会評議員。
琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353床

- ・精神 151床
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



路線バス

那覇BS(下り)または名護BS(上り)より
沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停
下車徒歩3分

自動車

那覇市から40分沖縄自動車道金武
インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15
(土・日・祝日・年末年始以外)

TEL 098-968-2133(代)

内線 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550

FAX 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン (CLZ) 治療を開始し、全症例数は延べ408例になりました。2024年1月のCLZ導入数は4例で、このうち2例は他の精神科病院に入院中の紹介患者さんで、もう2例は他の精神科病院に通院中の紹介患者さんでした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、隔離や身体拘束は、ほとんどの症例で解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ (<https://www.drugs-net.novartis.co.jp/drugs/products/product/clozaril/point/>) でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

クロザリル治療病棟近況報告

東Ⅱ病棟師長 高江洲 美寿々

クロザリル治療病棟では、入院患者さんやご家族を対象にクロザリル治療の説明や心理教育を定期的実施し疾患と治療の理解を深めながら、退院サポートの一環として取り組んでいます。

今回は病棟で行っている「患者対象の学習会」について紹介します。

学習会は「クローバーの会」といい、平成27年から週1回病棟内で開催しています。学習会の主な内容は、①クロザリル薬に関する作用・副作用 ②副作用発生時の対処法 ③治療に対する考えや思いを看護師が直接患者さんへ尋ね、不安感などの気持ちを引き出しながら看護ケアに活かしています。患者さん4～5名の小集団で、同じ病気を経験した仲間と病気のことや症状を話す場を作ることで患者さんの「一人ではない」という安心感に繋がっています。また、クローバーの会を開催することで、患者さんの薬に関する知識や疾病理解もスムーズになっていると思います。

これからもクロザリル薬を服用することの重要性や副作用等について、一人ひとりの患者さんやご家族の方のご理解を促すためにも、医療チームで寄り添いながら、患者さんがその人らしく地域で暮らすことを目指して丁寧な看護を提供して参ります。



重症心身障がい児(者)病棟近況報告

西Ⅱ病棟師長 玉城 由美恵

当院の重症心身障がい児(者)病棟は、90床2つの病棟で運用しており強度行動障害の利用者が多く入院されています。身体リハビリテーション、摂食機能療法、発達段階に合わせた療育活動など多職種チームで援助しています。看護においては、個別的ケアを意識した日常生活の援助やてんかんの看護のほか、倫理カンファレンスを行い看護ケアの振り返りを行っています。また、療養介助専門員は、介護計画に沿った日常生活の援助を実施し、専門的知識や技術のスキルアップのための院内研修にも参加しています。

地域医療連携室

精神保健福祉士 伊禮 有香里

琉球病院では成人外来の初診について、事前に受診予約も承っておりますが、当日11時までのご来院の受診も対応しております。一般精神をはじめ、アルコール依存症を含むアディクション全般、認知症など様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。受診のご相談、入院治療や入院環境に関してのご質問などありましたらお気軽に地域医療連携室までお問い合わせください。

重症心身障がい医療

療育指導室長 金城 安樹

重症心身障がい児(者)病棟では年明けの院外活動として、小グループに分かれて金武観音寺への初詣、阪神タイガースのキャンプ地巡り、花見に出かけました。天候にも恵まれ暖かな日差しを受け、普段感じられない雰囲気や景観等、利用者の方々と共に楽しく過ごす事ができました。少しずつ通常の活動が再開しつつあり、次年度は家族参加の院外活動やイベントボランティアの導入、季節行事の充実をはかりたいと思います。

